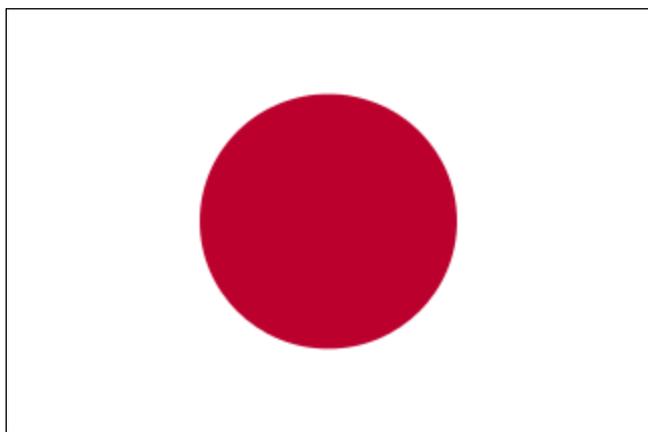


# 庄原市青少年友好訪問団

## 思い出のアルバム



令和元年7月29日（月）～8月3日（土）

庄原市教育委員会



# 令和元年度庄原市青少年友好訪問団 名簿

## 児童生徒

	氏名	学校名	学年
1	伊藤 あんな	庄原小学校	6年生
2	川本 小夏	庄原小学校	6年生
3	八谷 春輝	川北小学校	6年生
4	神本 あやめ	西城中学校	1年生
5	小谷 駿介	西城中学校	1年生
6	若佐 淳平	西城中学校	1年生
7	小田 祈	東城中学校	1年生

## 引率・通訳

	氏名	所属等	備考
8	加藤 真悟	西城中学校長	団長
9	今福 世吏菜	西城中学校養護教諭	引率
10	岡崎 敏朗	教育委員会学事係長	引率
11	和手 正彦	西日本日中旅行社	通訳

# 令和元年度庄原市青少年友好訪問団 行程表

日次	都市	内 容	宿泊先																								
7月29日 (月)	庄原 空港 広島 成都 成都 綿陽	専用車にて広島空港へ移動 到着後、チェックイン・出国手続き 中国東方航空にて成都へ移動（上海経由） 到着後、綿陽の方と合流 専用車にて綿陽市へ移動 綿陽市到着、ホームステイ家族との対面式 歓迎夕食会 夕食後、ホームステイへ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ホームステイ先児童氏名</th> <th>性別</th> <th>訪問団員氏名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>黄 子炫 (こう しけん)</td> <td>女</td> <td>伊藤 あんな</td> </tr> <tr> <td>鄒 嘉妍 (すう かけん)</td> <td>女</td> <td>川本 小夏</td> </tr> <tr> <td>劉 恪 (りゅう かく)</td> <td>男</td> <td>八谷 春輝</td> </tr> <tr> <td>杨 子姮 (よう しこう)</td> <td>女</td> <td>神本 あやめ</td> </tr> <tr> <td>祖 梓航 (そ しこう)</td> <td>男</td> <td>小谷 駿介</td> </tr> <tr> <td>徐 子博 (じょ しはく)</td> <td>男</td> <td>若佐 淳平</td> </tr> <tr> <td>左 子凡 (さ しはん)</td> <td>女</td> <td>小田 祈</td> </tr> </tbody> </table>	ホームステイ先児童氏名	性別	訪問団員氏名	黄 子炫 (こう しけん)	女	伊藤 あんな	鄒 嘉妍 (すう かけん)	女	川本 小夏	劉 恪 (りゅう かく)	男	八谷 春輝	杨 子姮 (よう しこう)	女	神本 あやめ	祖 梓航 (そ しこう)	男	小谷 駿介	徐 子博 (じょ しはく)	男	若佐 淳平	左 子凡 (さ しはん)	女	小田 祈
		ホームステイ先児童氏名	性別	訪問団員氏名																							
黄 子炫 (こう しけん)	女	伊藤 あんな																									
鄒 嘉妍 (すう かけん)	女	川本 小夏																									
劉 恪 (りゅう かく)	男	八谷 春輝																									
杨 子姮 (よう しこう)	女	神本 あやめ																									
祖 梓航 (そ しこう)	男	小谷 駿介																									
徐 子博 (じょ しはく)	男	若佐 淳平																									
左 子凡 (さ しはん)	女	小田 祈																									
7月30日 (火)	綿陽	綿陽庄原友好小学校訪問、交流活動 李白故里、李白記念館見学 夕方、ホームステイへ	綿陽泊<綿州酒店>																								
7月31日 (水)	綿陽 西安	富楽山公園見学 綿陽駅でお別れ 高速鉄道（新幹線）で西安に移動 到着後、ホテルへチェックイン 夕食：広東料理	西安泊<古都文化大酒店>																								
8月1日 (木)	西安	終日、西安郊外・市内見学 兵馬俑坑博物館、秦の始皇帝陵、 大雁塔、歴史博物館、西の城門 夕食：名物「餃子のフルコース」																									
8月2日 (金)	西安 上海	専用車にて西安空港へ移動 国内線にて上海へ移動 到着後、上海観光 夜：上海雑技鑑賞	上海泊<徐匯瑞峰酒店>																								
8月3日 (土)	上海 空港 庄原	上海市内見学 上海動物園、101 階森ビル、バンド 時速 430km のリニアモーターカー試乗 中国東方航空にて広島へ帰国 到着後、入国・税関手続き 専用車にて庄原市へ移動 到着後、解散式																									



热烈  
欢迎

# 庄原市青少年访问团



7/30 富楽実験小学校（綿陽庄原友好小学校）の皆さんと

2019年 富小师生与庄原市领导合影



7/30 ホームステイ家族の皆さんと



7/31 富楽閣





8/1 兵马俑坑博物馆



8/1 西安の城壁（长乐门）



8/3 上海动物园

## 「日本と中国を結ぶ文化の架け橋 ～五感で味わった中国～」

庄原市立西城中学校 校長 加藤 真悟

私自身これまで中国を訪れたことはなく、中国と言えば、テレビの旅番組や料理番組等でよく扱われる国、社会科等の授業で学習する国という感覚でした。社会科教諭であったことから多少の知識はあったものの、「百聞は一見に如かず」という故事のとおり、これまでの概念を大きく変えるものとなりました。

見渡す限り続く農耕地、計画的に整備された交通網、高層ビル群が林立する都市等、目に映る景色は国土の広大さと世界一を誇る人口、高い経済力を感じさせるものばかりでした。そして何より、秦・漢・三国時代と紀元前から今日まで脈々と受け継がれている自国の歴史や文化に自信と誇りをもつ国民性には、素直に感動させられました。

訪問団として参加した7名の子供たちの眼差しは、ホストファミリーのおもてなしや綿陽市富楽実験小学校での交流を通して、キラキラと輝きを発していました。同様に、富楽実験小学校の子供たちも目を輝かせ、自信をもって自身の得意分野を披露してくれたり、将来の夢を熱く語ったりしてくれました。この瞬間、「友好親善の絆を深める」とは、難しいこと、特別な何かをすることではなく、人と人、心と心の触れ合いを大切に、自分から積極的に相手に気持ちを伝えること、相手を理解し受け入れることであり、そのことが幾つもの壁を取っ払う鍵であるということを実感できました。

今回の訪問は、何もかもが、私たちにとって貴重な経験となりました。中国の歴史、文化の奥深さや人々の優しさを知り、日本との違いを感じる事ができたこと、そして、これまであまり意識していなかった日本の素晴らしさに改めて気付く事ができたとは、国際理解を進めるうえでの重要な視点となりました。

終わりになりましたが、庄原市と中国四川省綿陽市との交流が始まり30年目という節目の年に、庄原市青少年友好訪問団の団長として中国を訪れる機会をいただいたことに対して、多くの関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



## 「庄原市青少年友好訪問団として中国を訪問して」

庄原市立西城中学校 養護教諭 今福 世吏菜

私にとって今回庄原市青少年友好訪問団の一員として中国を訪れたことは、大変貴重な体験になりました。文化の違いを肌で感じ、驚きと感動の日々を過ごしました。中でも特に、中国の方々の「つながり」を大切にしている心に感動しました。学校を訪問した際に児童の歌や芸能、書道などを披露していただき、私は児童の堂々とした姿に圧倒されました。今日を迎えるまでの、先生方の指導や児童の練習の日々を思い浮かべ、感謝と感動の気持ちでいっぱいになりました。

ホームステイ先では、訪問団の児童生徒を様々な場所へ連れて行ってくださり、体験を通して文化に触れる機会をつくっていただきました。各家庭では、本場の四川料理を食べきれないほどたくさんふるまってくださったそうです。また、お別れの際には、鞆にいっぱいのお土産をいただきました。ホームステイのご家族と触れ合う児童生徒の表情はとてこやかで、たくさんのおもてなしや真心をいただいたことが子供達の表情から伝わってきました。

庄原市と綿陽市のつながり、教育に携わる職員のつながり、ホストファミリーと訪問団の児童生徒とのつながりを大切に思ってくださった方々の思いがとて嬉しく感じました。

私は、今回の訪問で得た思いを今後の生活の中でも振り返り、人とのつながりを意識して学校教育に携わりたいと思います。子供達が受けた感動や学びを次に繋げていけるように今後も見守ってまいります。最後になりましたが、このような機会をつくってくださった庄原市長をはじめ、この事業を支えてくださる皆様に感謝します。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



# 【準備会～出発式～綿陽市】





## 「中国への訪問」

庄原市立庄原小学校 第6学年 伊藤 あんな

私は、7月29日から8月3日まで、5泊6日の日程で中国を訪問してきました。

7月29日、30日はホームステイをしました。ホームステイで一番楽しかったのは、屋台です。屋台では、タピオカ抹茶ティーを飲みました。また、大阪風のとこ焼きも売られていて、おいしかったです。その後は、ゲームセンターに行きました。私は見事、ゴリラの人形「ごりらん」をゲットできました。屋台やゲームセンターでは、ホームステイ先の女の子とツーショットで写真をとったりして、家族の皆さんと楽しく過ごせました。

私が中国で特に楽しかったことは3つあります。

1つ目は、ホームステイです。ホームステイでは英語が通じるので、言葉の心配をしなくていいということがとても意外でした。

2つ目は、小学校への訪問です。訪問した小学校は、全校児童2000人の学校で、庄原小学校よりも圧倒的に大きかったです。小学校の皆さんの発表は面白かったです。ロボットクラブみたいなものもあって、「入りたいなー」と思いました。また、中国の伝統芸能である「変面」を見ました。ゴムでできたお面をつけて、次々と顔が変わっていくのがすごかったです。

3つ目は、上海雑技団です。私も体操を3歳からやっているけど、それとは比べ物にならないほど、みんなすごかったです。特にすごいと思ったのは、椅子を高く積み上げて、落ちたら大怪我するような高さのところで、片手で逆立ちをしていたことです。

この訪問を通して、私の身に付いた力は、人前で発表したり、恥ずかしがらずに会話をしたりする力です。ホームステイ先の家族の皆さん、小学校の皆さん、雑技団の皆さんは、この力がたくさんあると思いました。

これからは、庄原の皆さんに、私の経験を紹介したいです。



## 「中国へ行ってきました」

庄原市立庄原小学校 第6学年 川本 小夏

私は、中国へ青少年友好訪問団として行ってきました。私にとって初めての海外旅行であり、出発前は5泊6日という長い期間を乗り切ることができるのかとても不安でした。しかし実際に中国へ行ってみると、とても楽しくてあっという間の6日間でした。どの活動も勉強になり、とても良い経験・思い出となりました。

中でも特に良い経験となったものは、ホームステイです。私にとってホームステイは初めての経験なのでとても緊張していましたが、ホストファミリーの方がやさしく接してくれたおかげで緊張がほぐれ、楽しい時間を過ごすことができました。中国の家庭の様子や食べ物についても知ることができ、餃子は焼き餃子よりも水餃子が主流であることやスイカをよく食べることが分かりました。

そして特に勉強になったことは、たくさん行った博物館や古い建築物です。お寺など歴史ある建物は壮観であり、また昔の中国の様子分かる模型や発掘されたものなど多くの資料により、興味深いところや気付きを発見できました。日本にあるものと同じようなものや似ているもの、関係があるものもあり、中国と日本が遥か昔から交流してきた歴史を感じることができました。

感動したことは、なんとといっても綿陽の小学校の発表と上海雑技です。綿陽の小学生は歌や武道の演武、一瞬でお面が変わる変面という伝統芸能を披露してくれました。どれもとても素晴らしく感動的でした。上海雑技は信じられない技の連続で、ユーモアもあり、感動と興奮のステージでした。

私は日本と中国の架け橋となれるよう、今回の中国訪問での経験や学んだことを、たくさんの人に伝えていきたいと思います。そして更に心身ともに成長していきたいです。



## 「青年友好訪問団を終えて」

庄原市立川北小学校 第6学年 八谷 春輝

ぼくは、中国に行き感じた事が2つあります。

1つ目は、中国の人たちがとても優しくかったです。

2つ目は、想像していたよりも街並みがきれいで、ごみが落ちていなかった事です。

綿陽市を観光して感じたことは、歴史があるというのをすごく感じました。

訪問を通して学んだことは、3つあります。

1つ目は、ホームステイでの会話です。ぼくは、中国語が全然話せないのに、英語やスマホなどで会話をしました。中国語が話せなくても、努力すれば会話ができるということが分かりました。

2つめは、日本の食文化と中国の食文化の違いです。食事を回るテーブルで食べたり、箸が日本の箸より長かったり、また、食べ物を残してもよいことを知り驚きました。

3つ目は、中国にもアニメがたくさんあることです。ぼくのホームステイ先の家庭には小学5年生の男の子がいました。その男の子が中国のアニメを見せてくれました。アニメは言葉が分からなくても絵をみていたら内容が分かりました。日本のアニメとは絵が少し違って面白かったです。

ぼくの思い出に一番残っているのは、上海動物園のパンダを見たことです。ぼくはパンダが好きで、日本の動物園にいるパンダを家族で見に行ったこともあります。ぼくの将来の夢は獣医師です。それは、動物が幸せに少しでも長生きできるようにしてあげたいからです。今まで出会った動物の中でも数が少ないパンダは絶滅危惧種になっているので、ぼくが大人になったら、パンダを保護する活動をしたいです。もしもパンダが絶滅していたら、他の動物が絶滅しないように保護したいです。

この訪問で悔いに残ったことが1つあります。それは、綿陽市の学校で見せていただいたカンフーの写真を撮り忘れたことです。ぼくは、いつかまたカンフーを見たり、習ったりしたいと思いました。

ぼくは今回の訪問を通して、色々なものを見たり、触れたりして、とてもよい経験になりました。特に中国の文化を知ることができたので、学校の友達にも教えてあげたいと思います。



## 「中国訪問を通して学んだこと」

庄原市立西城中学校 第1学年 神本 あやめ

私たち7名は、7月29日から8月3日までの6日間、中国を訪問しました。私は海外旅行の経験がなく、ホームステイなどへの不安や緊張と期待が何度も入り混じっていました。

中国でのホームステイや視察研修を通して、日本との違いを2つ報告します。

1つ目は、学校の休憩時間です。日本の昼休みは20分程度ですが、中国は季節で異なり、5月から10月の間は3時間、11月から4月の間は2時間もあるそうです。その理由は、大半の家庭は親が共働きであるため、親が昼休みに家に帰れるようにという配慮があったり、夏は特に暑くて疲れるからお昼寝をしったりすることができるようにしてあるそうです。

2つ目は、家庭での行事です。日本の家族での主な行事には、誕生日、お葬式、進学祝い、結婚式などがあります。特に、日本のお葬式は、礼服を着て、亡くなられた方を悔やみ、涙を流しますが、中国では、華やかな服を着てとても賑やかな様子でした。「なぜお葬式なのに賑やかなのかな?」と思い聞いてみると、中国では、長い人生を終えて「楽になれる」という考え方をするからだそうです。このことから、日本と中国の考え方には違いがあり、それぞれの文化があるのだと改めて思いました。

この経験を通して、実際に外国に行き、その地域のよさや日本との違い、そして歴史を身近に感じることができました。「百聞は一見に如かず」ということわざにもある通り、ニュースで聞く情報よりも実際に行って見る方がその国や地域をよく知ることができると感じました。この思いを思ったままに終わらせず、「行ってみたい。興味がある。」と思ったら、積極的に行動し、将来はいろいろな国の人たちと交流できるようになりたいです。

最後に、募集段階から練習や準備、お世話をしてくださった市役所の方、学校の先生方、中国語や折り紙を教えてくださった講師の先生方、資金面だけでなく準備や送り迎えをしてくださった家族の皆さん、本当にありがとうございました。



## 「中国綿陽市訪問について」

庄原市立西城中学校 第1学年 小谷 駿介

私は、青少年友好訪問団として四川省綿陽市の小学生と交流しました。

交流をした小学生とは、スマホアプリ、英語やジェスチャーで会話をしました。ホストファミリーが綿陽市のガイドしてくれた際の英語の発音が上手で、分かりやすく感心しました。また、私の未熟な中国語や英語を受け入れてくれました。

日本語の勉強をして歓迎してくれたホストファミリーは、笑顔が素敵で、私の訪問をすごく喜んでくれ、優しく接してくれました。

家の近くの公園では、早朝から体操をしている人がいて、さすが体操の国、中国だと思いました。また、道路脇の歩道にも体を鍛える道具などがあり驚きました。

ホストファミリーと過ごす最後の夜、サプライズとして私をある場所に連れて行ってくれました。そこは、お城のような所でした。最上階からの眺めは、周りのビル全体がイルミネーションのように光り、ビルに映るパンダが動いていて、綿陽市の紹介をしていました。すごく近代的で感動しました。また、西城川の3倍くらいある綿陽市で一番大きな川にかかる橋は、近代的なおしゃれな造りでした。

綿陽市には素敵なおところだけではなく、素敵な人々がたくさんおられ、一人一人がみんな優しく、すぐに仲良くなることができました。

その後の旅で、私たちは兵馬俑や歴史博物館を見学しました。兵馬俑と同じくらい多くの観光客がいました。兵馬俑は、兵士の顔一つ一つが違い、身長も様々でした。通訳の方の話によると、すべて身長が180センチメートル以上でイケメンの兵士がモデルに選ばれているそうです。昔の人の努力はすごいなと思いました。また、歴史博物館では、相撲や着物など、日本と中国との関係を深く知ることができました。

私はこの訪問で、様々なことを学びました。日本と中国との相違点や中国のよさを学ぶとともに、日本のよさを見つめ直すこともできました。コミュニケーションや人との関わりも積極的になりました。この5泊6日の訪問は、私を成長させてくれたと思います。



## 「中国での経験」

庄原市立西城中学校 第1学年 若佐 淳平

私は、庄原市青少年友好訪問団の案内を見て、ぜひ参加したいと思い、父に相談したところ、すぐ勧められました。正直、一人で外国へ行くことに不安を感じて悩んでいましたが、友達も参加するというのを聞き、私も参加することを決めました。

参加を決めたとき、まず、中国の方々とのどのような気持ちで交流するかを考えました。どのようなときでも、日本代表の中学生という自覚をもって交流していこうと決めました。今回の日程の中にはホームステイなど、私が今まで経験したことがないものが幾つもありとても楽しみでした。

今回の訪問で特に心に残っていることが3つあります。

1つめは、ホームステイです。中国に行く前は、中国語でコミュニケーションをとることは難しいと思っていたので、英語やジェスチャーを使って積極的に言葉の壁を越えていこうと思っていました。しかし、実際には、英語やジェスチャーを使う場面もありましたが、ホストファミリーが用意くださったスマホの通訳アプリで会話をすることで、たくさんコミュニケーションをとることができました。

2つめは、中国の小学校の児童との交流です。日本の小学校との違いに興味をもち調べてみると、中国にも部活動の様な活動があったり、制服があったりと日本ととても似ていました。しかし、中国の教室にはクーラーがなかったり、全天候型グラウンドだったりなど、日本と違う部分もたくさんあり驚きました。

3つめは、博物館の見学です。訪れた博物館の中でも特に心に残っているのは、秦の始皇帝兵馬俑博物館です。社会科の歴史学習で兵馬俑の写真を見たことはありましたが、実際に自分の目で見る兵馬俑はスケールが全く違い、とても興味をもてました。

今回の訪問で、楽しい部分以上に学ぶことがたくさんありました。学んだことを、将来の夢であるプログラマーという職業に活かしていこうと思いました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



# 「青少年友好訪問団の6日間を振り返って」

庄原市立東城中学校 第1学年 小田 祈

7月29日から8月3日までの6日間、庄原市青少年友好訪問団で中国に行きました。

初日と2日目はホームステイでした。私は、ホームステイで家族の人と話ができるか不安でしたが、対面式と一緒に食事をしたとき、ホームステイ先の家族の方から話しかけて下さり、とても嬉しかったです。ホームステイ先の家では、スイカやドラゴンフルーツを頂きながらお土産の説明をしました。私のお土産は、東城の土鈴と折り紙、けん玉です。土鈴の説明をするときに、英語や中国語で上手く説明ができなかったけど、「大切に飾っておくよ」と言ってもらい、思いが通じて良かったと思いました。夜は、お互いに趣味や得意なことを紹介して、距離を少しずつ縮めることができました。2日目は、綿陽市の小学校を訪問しました。綿陽市の小学校は、日本の小学校に比べてグラウンドがびっくりするほど広がっていました。日本には無いようなローラースケート部や、たくさんの部活動がありました。交流活動では、仮面の踊りなど、いろいろなパフォーマンスがあり、クオリティーが高く、とても楽しめました。私たちの発表は、練習した成果を発揮でき、きっと喜んでもらえたと思います。

3日目以降は観光でした。兵馬俑坑博物館では、世界遺産の兵馬俑を見ました。8000体の兵馬俑は、1体1体表情が違い、細かく作られているなと思いました。上海動物園では、パンダを見ました。笹を食べていて、可愛らしく感じました。上海雑技鑑賞では、迫力のあるパフォーマンスに魅了されました。どの演技も勢いがあり、見ている私たちはドキドキさせられました。森ビルからは、社会の教科書に載っていた上海の高いビル群を眺めることができました。エレベーターで101階まですごく速いスピードで上がっていくことに驚きました。

私がこの6日間で心に残ったことは、2つあります。

1つ目は、中国の方の優しさに触れることができたことです。ホームステイは、私にとって、初めての経験で、知らない人の家に泊まるのは不安だったけど、家族の方が温かく歓迎してくださったので、とても安心して2日間過ごすことができました。

2つ目は、中国の観光です。普段行くことのできない場所で、日本では触れることのない中国の歴史ある文化を間近に感じることができ、最高の思い出になりました。今回の経験を今後の学校生活に活かし、積極的にコミュニケーションを取り、たくさんの人の意見や思いを取り入れていきたいです。



# 【富楽実験小学校（綿陽庄原友好小学校）との交流会】



# 【綿陽市内見学】



# 【西安~上海~帰国~報告会】

